



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2011年4月号

「主題」

- 国際会長 : 「心新たに立ち上がろう」
- アジア地域会長 : 「心新たに立ち上がろう」
- 西日本区理事 : 「飛翔たとう ワイズスピリットを胸に」
- 中部部長 : 「ワイズはフェイス to フェイス！」(コミュニケーションは顔を見て声をかけて)
- プラザクラブ会長 : 「とにかく楽しくやってみよう」

【YMCAサービス・ASF=YMCAの歴史に学び、使命を理解して、サポート体制を強化しよう。】

4月例会および今後の予定案内

【4月第1例会】

日時：4月7日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：卓話 「戦いすんで日が暮れて(仮称)」
 講師：池田千晶氏(中日新聞社 記者)
 費用：1000円/名
 ◇ご家族、ご友人、他クラブの方々のご来場をお待ち
 しております。

【4月第2例会】

日時：4月21日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：次月例会打合わせ
 出席義務者：役員(島崎・櫛田・後藤)
 5月担当者(鈴木・高田)
 6月担当者(大島・後藤)

【今後の予定】

1. ハモンドオルガンコンサート
 日時：4月9日(土)・18:45-
 場所：撞木館(しゅもくかん)
 東区撞木町2-18 TEL. 052-939-2851
 会費：3500円/名
2. 5月第1例会
 日時：5月12日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
3. 5月第2例会
 日時：5月19日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
4. 第14回西日本区大会
 日時：6月11日(土) - 12日(日)
5. 6月第1例会(POM)
 日時：6月18日(土) - 19日(日)

3月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者				
		1	2	①	②	③
	大島 孝三郎	○				
	大平 純市					
	小澤 幸男	○				
書記	櫛田 守隆	○	○		○	
会計	後藤 猛	○	○	○		
会長	島崎 正剛	○	○		○	
直前会長	鈴木 誉三	○		○		
	高田 廣	○	○			
連絡主事	万福寺 昭美	○	○	○		
課外活動	①大震災街頭募金 3/19					
	②中部評議会 3/21					
	③					
出席率・%					88.9	
1. ニコボックス		2,860		35,510		
2. オークション				16,400		
当月合計/累計		2,860		51,910		
5月号ブリテンの寄稿者は大平さんです。 400字詰原稿用紙4-5枚を目安にお願いします。 Eメール moritaka_kushida@ybb.ne.jp						
6月号・高田 / 7月号大島 / 8月号・後藤						
◆プラザクラブのブリテンは、月の最終木曜日から中部ホームページでご覧いただけます。						

ASF=Alexander Scholarship Fund(アレキサンダー奨学資金)

3月第1例会報告

日時：3月3日（木）・18：30－21：30

場所：ケンポー

1. 西日本区大会参加者確認・島崎

4人。島崎さん一括して宿泊先など申し込む。

2. グランパス3月第1例会案内・島崎

3月5日（土）午後7時よりYMCA会議室にて「開発教育入門-貿易ゲームで遊ぼう」との演題で例会が開催されます。「開発教育とは共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加するための教育」とのことです。興味のある方は食事代1200円を持参のうえご参加ください。

3. 4月第1例会・島崎

今月の卓話講師に予定していた中日新聞記者の池田千晶氏は、市議会議員の選挙公示前日だったため4月第1例会に延期しました。演題は未定ですが市議会議員選挙の裏話など、新聞では読めないようなお話が期待できそうです。旬の話題だけに少人数で聞くにはもったいない気がしますので、食事代1000円でほかのクラブの人たちに参加を呼びかけたいと思います。案内文はブリテン担当者をお願いします。

4. ハモンドオルガンコンサート・小澤

日時：4月9日（土）・18:00

場所：撞木館（しゅもくかん）

会費：3500円/名

5. 反省会

何かのときの「反省会頼み」、3月の卓話に中日新聞社の池田さんを講師にお願いして卓話を予定していましたが、名古屋市議選公示の前日では断られる。4月に延期の依頼は、小澤さんに再度お願いすることに。

3月の例会は反省会と称する「飲み会」変更について全員賛成、異議なし。早速、島崎会長がケンポーに予約の電話を入れた、のは先月の第2例会。



（また“反省会”ですか？ と言われそうですが・・・）

ということで本日は、分部さん、山内さん、EMC 主

査の下村さんと女性3名をゲストにお迎えしての反省会となった。下村さんは少し遅れて到着、「はいどうぞ、駆けつけ三杯」と会長が酒を注ぐ。ちなみに『駆けつけ三杯』とは、酒をすすめるときに「一献いかが」というが、一献とは酒3杯に着の組み合わせのことで、遅れてきた人に「この第一献目の3杯の酒を飲め」と言ったのが始まり、らしいです。（YAHOO!知恵袋より）

山内さんが帰ってきた。お家の方は落ち着かれたようで、わたしのように再入会の出戻りも「ワイズを横から見る」ことが出来て乙なものですよ。などとお話しながら杯がすすむうちに、どんな話題だったのか記憶が段々薄れてきた。こんな時は多分変なことに怒っている。下村さんはじめ周りの方々に迷惑をおかけしたようです、申しわけございませんでした。おわり

中部評議会報告

2010年-2011年度の第2回中部評議会が3月21日午後1時半から、名古屋YMCAの3階会議室で開かれ、中部のクラブ会長、事業主査ら27人が参加した。会議は第1部渋谷部長の「中部の会員数が12人増」との事業報告に続き、第2部の議案協議は提出された4議案を賛成多数で承認、第4部谷川監事の「中部は好転している」との講評は、第3部のクラブ会長、事業主査の報告を聞きながら実感した。

なお、最後にみなさんからの献金21500円は、街頭募金同様YMCA同盟を通じて東日本大震災の被災者の方々に届けられます。

（櫛田 守隆）



（いざ立て 心あつくし、とワイズソングを全員で合唱）

3月第2例会報告

日時：3月17日（木）・18：45－20：00

場所：名古屋YMCA会議室

1. お年玉切手徴収・後藤

大島 9・高田 7・後藤 4・鈴木 2・合計 22
@130/シート×22 枚=2860 円・島崎さんお買い上げ、
ニコボックスに。

2. 大震災被災者支援・島崎

(1) 仙台 YMCA の救援物資要請を受け、東日本区「大震災対策本部」より、クラブ単位での救援依頼がありました。希望品からタオルを 5 万円分鈴木(鈴木さん)から指定場所の東京 YMCA 妙高高原ロッジに至急送る手配をする。

(2) 名古屋 YMCA からの義援金募集は個人単位で行う。

(3) 名古屋 YMCA は 3 月 19 日(土)午後 3 時から 5 時までで栄で募金活動を行う。有志の方は 3 時までで中央教会前に集合のこと。

3. 6 月 POM の予定・後藤

日には 6 月 18(土)–19(日)、場所はまるは(豊浜)、かんぼの宿(美浜)のいずれか、決定は月担当者(大島・後藤)一任とする。6 月の例会は 2 日を第 2 例会、POM の日は第 1 例会とする。

大震災被災者支援で街頭募金

名古屋 YMCA は 3 月 19 日、東日本大震災被災者支援のため街頭募金を行った。YMCA の職員、リーダー、ワイズのメンバーら 80 人は中央教会へ集合、栄の 3ヶ所と名古屋駅前の 2ヶ所に分かれ、3 時より道行く人たちに「お願いします」と笑顔で協力を呼びかけた。

約 2 時間の活動で集まった約 40 万円は、日本 YMCA 同盟を通じて被災地に送られます。

(万福寺 昭美)

悪夢

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に発生した M9 の地震は、10m をはるかに超える津波を従えて東日本の太平洋岸の街や村を破壊しつくした。1000 年に一度の地球の自転速度にも変化をもたらす、世界でも類を見ない巨大地震。1100 年以前にも同規模の地震が同じ地域で発生した。869 年 7 月 13 日。日本は平安時代末期。中国は唐の時代。韓国では新羅。京都の祇園祭もこの時代に始まったとのこと。歴史上のはるか昔。地球の時間と人の時間の圧倒的な差。歴史上のはるか昔ではあるが、地球の時間からすればつい最近。地球は誕生から 45 億年。

この地域でも 10 年以上前から言われている東海・東南海・南海地震。過去は、以下に記す。

684 年 11 月南海(東海・東南海も同時発生か?) M8.0~8.3。887 年 8 月南海(東海・東南海も同時発生か?) M8.0~M8.5。1096 年 12 月東海 M8.0~8.5。1099 年 2 月

南海 M8.0~M8.5。

1200 年東海・東南海・南海同時。1361 年 8 月南海 M8.0~8.5。1498 年 6 月南海、同年 9 月東海・東南海 M8.2~8.4。この地震で浜名湖が海とつながる。1605 年 2 月東海・東南海・南海 M7.9~8。1703 年 12 月関東 M8.1。1707 年 10 月東海・東南海・南海 M8.4~8.7。1854 年 12 月 23 日東海・東南海 M8.4。翌 24 日南海 M8.4。1923 年 9 月関東 M7.9。1944 年 1 2 月東南海 M7.9。1946 年 1 2 月南海 M8.0。(出典 Wikipedia 地震の年表より抜粋)。今後 30 年以内にかかる確率は、東海 67%・東南海 94%・南海 86% (地震調査研究推進本部地震調査委員会の全国地震動予測地図参照)

ここまでの規模の災害ではないが私も平成 12 年 9 月 11 日に東海洪水の惨禍に見舞われた。

11 日から 12 日にかけての雨は最大 1 時間降雨量 97.0mm、最大日降雨量 534.5mm。新川の堤防が西区で未明に決壊。当時は合併前で西枇杷島町。4000 世帯が床上浸水。私の住まいも床上 1m40 の浸水。

前日の午後から雨脚がひどくなり、午後 2 時から 3 時ころには車で走っていて前方が水しぶきで見えずノロノロの徐行運転。少し漠然とした恐怖を感じつつも暫くすれば大丈夫だろうと仕事も早々に切り上げて当時は二ツ杵に住まいがあり帰宅。そのうち女房から携帯に連絡が入り「西区は道路冠水で走れずに近くのガソリンスタンドに避難している。どうしよう。」との知らせ。立ち往生をしているようなので息子に行くように伝える。暫くして自宅には帰れそうもないので息子ともども北区の女房の実家に避難するとの連絡。まあ一安心と思っていたが、一向に雨のやむ気配もなく母親と二人で晩飯を食べたはずなのだが思い出せない。娘は名鉄電車で有松方面の高校に通学。連絡がない。暫くして娘から電車が不通で友達の家泊めてもらうとの知らせ。まあ無事かと安堵。午後 10 時くらいに娘から連絡。「おとうさん避難勧告が出ているから避難した方がいいよ。」と教えてくれた。テレビでもテロップが流れて避難を促す。なんとなく恐怖感はあるのだが、実感が湧いて来ない。そうこうしているうちに雨音の大きさに避難所に行くことを決意。さあどこに避難かと近所の人に聞いて、歩いて七八分の幼稚園に小降りになった雨の中を母親と避難所へと向かう。幼稚園だからそんなに広くない避難所には既に 20 人くらいの人が避難しており、所在無げに床に座って、乏しい情報に心もとない思い。避難所にいる町の職員に聞いてもはっきりせず、ぼんやりとした不安と身の置き場がなく居心地が悪い。一人だとどうにでもなるが年寄りの母親と二人だと何かと不都合。妙な緊張感と眠気と居心地の悪さと不安。ひとの会話に耳を傾けて何がしかの情報を得ようとするが確実な情報が得られない。

午前4時頃に町の職員が「西区の方で新川の堤防が切れた」と教えてくれた。外はうっすらと夜がしらみかけて雨も上がったので避難所に避難していた人たちも三々五々避難所を後にして家へと向かう。私も後から考えると奇妙だと思うのだが、ああ西区で切れたのかとの安堵感で避難所を後にしたのを思い出す。帰宅して午前7時ごろに保険の仕事の関係でお客さんのことが気掛かりになり電話で無事かどうかを確認していたところなんとなく外から聞きなれない音が聞こえてくるので不審に思い、立て付けの悪い昔の木製の引き違いの窓を開けて目の前の道路をみると、見る間に黒い水に覆われてくるのが見えた。まるで巨大なアメーバ。そして我に返ったように西区で堤防が切れても地続きということを理解した。遠いところとっていたがよくよく考えると水を遮るものは何も無いことに思い当たった。それから無我夢中で頭の中で思いつくものは何でも2階に持って駆け上がり、母親にもすぐ上がるようにと促した。水・食料・衣服・仕事関係の書類・その他思いつくままに大切なもの必要と思いつくものをつぎつぎに持って駆け上がり、駆け下りの繰り返し。火事場のくそ力。揚がって来る水面の早いこと。気付いてから1時間余で床上浸水。2階から階段の下段に揺らぐ黒い水面を不思議な感覚で見ている。紙面の都合で次回へ続く

(島崎 正剛)

聖書の言葉

【あなた方の会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。(コリント人への手紙 第1 10.13)】

【試練は際限なく続くものではありません。必ず終わりのときが来ます。道は始めから備えられています。】

Zoom・がんばれ、東北！

佐藤美紀さん、ご無事ですか？ 佐藤さんが寿退社されてからは年賀状だけのお付き合いですが、今回のことが心配でお手紙を差し上げました。あなたは泉区なので津波の心配はありませんが、たびたびテレビに映る閑上にお住まいのご両親、ご兄弟の・・・と、ここまで書いて筆が止まった。わたしの仙台営業所時代、彼女は名取市の閑上(ゆりあげ)から通っていた。父親と兄は港の市場で働き、紹介されたとき「ここで揚がったズワイガニは、北陸に行って“越前ガニ”になるん

ですよ」と自慢気だった。テレビで閑上の惨状を見て出した手紙に、三十余年も会っていない人へどんなことを伝えればいいのか、しかも不幸があったときは、などと気遣ってしまう。

1977年7月広島から仙台営業所に転勤、社員は所長以下総勢14人の少所帯でわたしの係は事務の佐藤さんと男性営業員3人、エリアは東北6県だった。仕事は土木、建築材料を扱う営業のため、12月雪が降り始めるころから3月の終わりまで開店休業である。この期間はおっぱら、役所の設計や営繕、設計事務所、建設会社などへ製品の使用認可やPR、地域の間屋、販売店へのあいさつ廻りが仕事であった。赴任した初めての冬、秋田の店で出されたコップの中身を知らず一気に飲んでむせた、酒だった。飲み干すと「いけるね、どうぞ」と一升瓶と漬物がストーブの横に置かれた。

2日目から八戸、久慈の市役所と間屋を1泊2日で廻るのが、12月から岩手県内の1コースになる。あるときの2日目、久慈市の仕事を終えていつも乗る列車が雪で遅れ、八戸駅から接続する特急に乗れなかった。次の仙台方面は寝台列車だが、寝台券分1000円弱足りない。駅の横にある交番のお巡りさんに借金をお願いしたが、「警察にはお金を貸す制度はありません」と断られた。なお名刺と免許証を見せながら懇願すると「警察官個人のお金です。半分以上は戻ってきません」と言いながら1000円を渡してくれた。翌日、1000円にお礼状と贈り物を添えて送った。

気仙沼駅前のホテルマンが教えてくれた居酒屋で食べたクジラの刺身は美味かった。頑固親父らしく、勧められたクジラの刺身を終戦直後の給食の印象から「硬くて臭い、いらぬ」と言ったら怒った。黙って出して「金はいらぬ」という。醤油だけではクセが残るが生姜を少しつければ美味しくいただける。月1回の出張のときは必ず寄ることにした。

塩釜の年寄りが「サンマはすくってとる」と言われても意味が分からず「漁法ですか」、「いいや、ほれ！あのカーブでよ、トラックが傾いて荷台からこぼれたサンマをスコップですくうのさ」昔々サンマの水揚げ量が日本一だった時代、トラックが無蓋車だったときのお話である。社員旅行で見学した女川の「くじら館」、店に入ってきた大男に会釈しながら声をひそめて「釜石の松尾さんだよ」と得意げに教えてくれたすし屋の兄ちゃん、家族と行った松島瑞巖寺、冬は温暖な福島浜通りのゴルフ場、津波で被害を受けた街々の昔の様子が思い浮かぶ。赴任の翌年に経験した宮城県沖地震のときは比べものにならないほどひどい。たった4年間でしたが、東北のみなさんに大変お世話になりました。1日も早い復旧とみなさまのご健康を心よりお祈り申し上げます。